中学校の授業について

学校生活の変化

中学校の日課表の例（戸田中学校の場合）	
朝の会	８：３０～８：３５
朝読書	８：３５～８：４３
１校時	８：５０～９：４０
２校時	９：５０～１０：４０
３校時	１０：５０～１１：４０
４校時	１１：５０～１２：４０
給食	１２：４０～１３：１０
昼休み	１３：１０～１３：４０
５校時	１３：４０～１４：３０
６校時	１４：４０～１５：３０
清掃	１５：３０～１５：５０
帰りの会	１５：５０～１６：００

- 授業時間の変化
  ４５分授業→５０分授業

- 日課表の変化
  業間休み（２０分休み）がなくなる、昼休みの時間の違い、掃除を行う時間帯の違いなど

部活動





市内１０１部活

陸上競技、野球、バレーボール、サッカー、バスケットボール
ソフトボール、ソフトテニス、剣道、ハンドボール、バドミントン
ボート、卓球、吹奏楽、家政、科学、英語、パソコン、美術、生活　など





円滑な接続に向けた小中連携　相互授業参観



中学校区で相互に授業参観の機会を設けることで、**指導や支援について共通認識**を図り、**９年間を踏まえた授業改善**につなげている。

円滑な接続に向けた小中連携　中学校区での連携共同研究







新曽中学校区の小中一貫教育

新曽から世界へ　主体的に学ぶ児童生徒の育成





中学校区で共通の研究テーマ等を設定し、教員の合同研修や児童生徒合同での授業等を実施することで、**小中連携による児童生徒の指導**につなげていく。

教科等の指導法研修会の実施



研修会を通して、**教科等の指導のポイントなどの共通認識**を図ったり、**互いの実践を共有**し、各小・中学校の授業改善につなげている。

教科担任制による授業





算数→数学、外国語活動・外国語→外国語、図画工作→美術などの違いもあり、
教科の内容も小学校の学習内容を踏まえたものになる

- 各教科における教師の**専門性を生かした授業**の実施
- 複数の教師による**きめ細やかな生徒指導、生徒支援**
- **副担任と連携した学級経営**も教科担任制とあわせて行われている。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた実践

国語の実践



課題解決に向け、協働しながら、生徒が必要に応じて、**動画で撮影したものを確認し**たり、**思考ツール**をもとに話し合ったり、**関係のサイトにアクセス**して調べたりする。

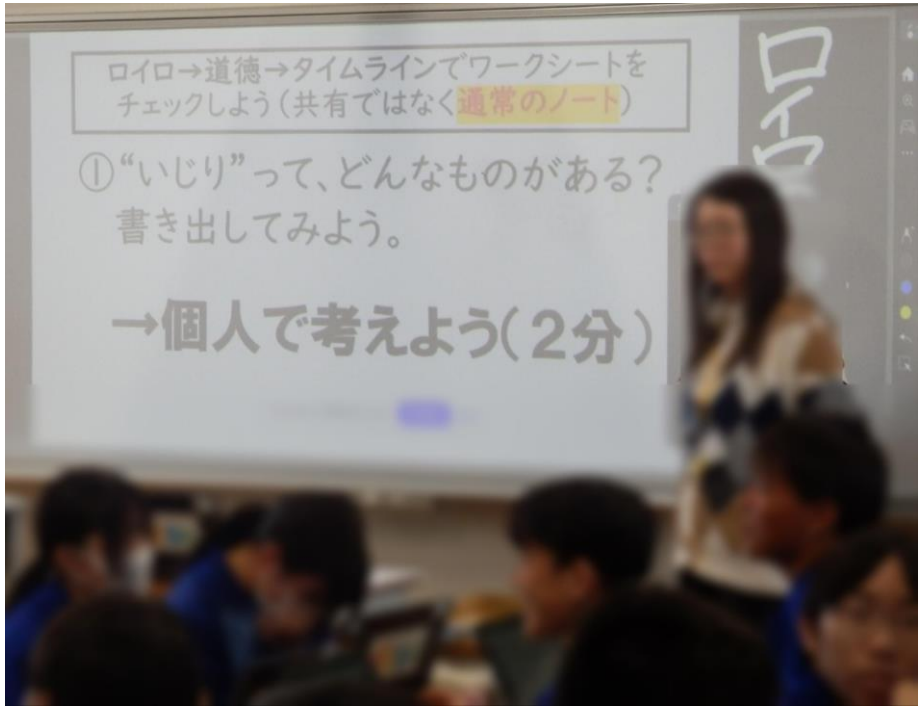
数学の実践



小グループに分かれ、生徒一人一人が**電子プリントを活用**しながら自分のペースで積極的に学習に取り組む。必要に応じて生徒は課題解決に向けて友達と話し合ったり調べたりする。

小学校の積み上げを踏まえた中学校の学び

ローテーションによる道徳の授業



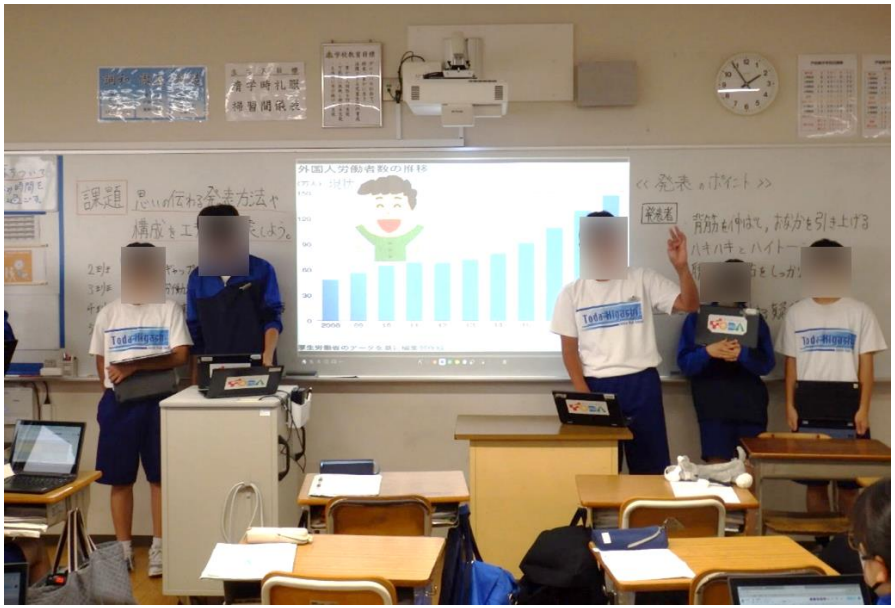
学年の職員がそれぞれ担当する教材を決め、全クラスで授業を実施する。

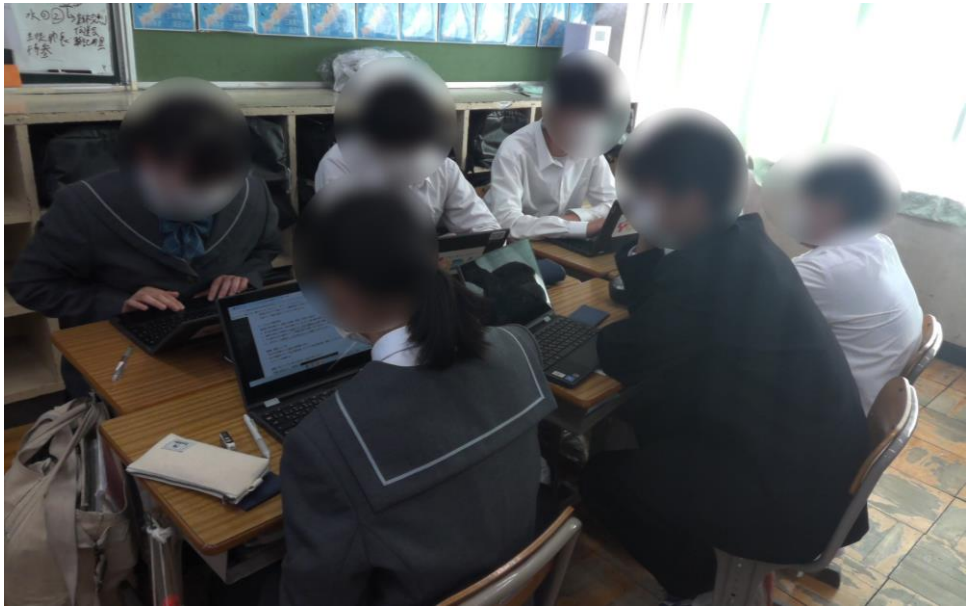
（道徳の例）	1組	2組	3組
1週目	A先生 （個性の伸長）	B先生 （友情、信頼）	C先生 （規則の尊重）
2週目	C先生 （規則の尊重）	A先生 （個性の伸長）	B先生 （友情、信頼）
3週目	B先生 （友情、信頼）	C先生 （規則の尊重）	A先生 （個性の伸長）

- **小学校での道徳教育をもとに**、各内容項目について、道徳科の授業を行うことで、**生徒は自己の生き方について考えを深め、道徳性の育成**につなげている。
- 学年職員で連携し役割を分担することで、**より多様な学習形態や学習方法での授業**につながっている。
- 複数の教員が生徒に関わることで、**生徒のニーズに応じた支援**につながっている。

小学校の積み上げを踏まえた中学校の学び

戸田型PBLによる授業





【例】中２総合「よりよい未来の自分のために」
３days（職場体験）をもとに、中学生としてできることを中心に立案・実行

【例】新校則施行に向けたルールメイキング
各学級での検討をもとに、生徒会本部役員や教員も議論を重ね、学校全体でのルールメイキングを実施

- **小学校で学んだ手法を活かしながら**、中学校でも**中学生としての視点をもとに**戸田型PBLによる授業をさらに進めている。
- 学年職員で連携して戸田型PBLによる授業を行うことで、各教員の**担当教科においても課題解決型の授業が推進**されることにつながっている。

定期テスト等を活用した評価の工夫





・各学期において、**中間テストや期末テスト**を実施し、学習の成果を確認している。**知識の定着だけでなく、思考力・判断力・表現力等に関する学習の成果を測る問題も設けている**。
・**パフォーマンステスト**等も実施し、技能や表現等の学習の成果も確認している。

進路に関する説明（第１学年）



令和９年度より変更される埼玉県公立高等学校入学者選抜について
対象となる第１学年の保護者を対象に保護者会にて説明

進路に関する説明（第２学年）



第２学年を対象に、次年度の受験や進路決定に向けて、学年集会で学年全体に対して、進路決定に向けての考え方や１年間の流れ等を指導する。

進路に関する取組（第３学年）



・公立高校の受検や私立高校の受験、就職試験等に向け、第３学年を対象に面接練習を実施。

・面接官は校長や教頭、主幹教諭、教務主任が行う。また、より本番に近い状況での実施とするため、学校運営協議会委員に依頼し、実施する場合もある。

中学校における授業改善のより一層の推進

- ✓ 中学校は、小学校での学びや培った力を土台として各教科等についてより専門的、発展的な学習を行う場であるが、目前に迫る高校受験に学校も保護者も意識が向きがちになり、入試を意識した知識偏重の授業が多く見られ、授業改善が進みにくい状況にある。

- ✓ 戸田市としても課題感をもっており、各中学校の先生方が小学校での授業の様子を見て、小学校での学びを知り、中学校での学びに生かしていくよう、管理職とも連携しながらそのような機会の創出や指導主事による授業改善に必要な指導支援を行っていく。

- ✓ 小学校においても、小学校の延長に中学校での学びがあり、中学校での学びを見据えて授業改善を図っていくことが重要。